



しかはま自然観察会

のらえもん

2020 年度

No. 1

2020. 4. 5

『 人も 自然も みんな友だち 』

第1回活動 春の生き物調べ、花見会、カブトムシの幼虫配布

コロナ禍のため、中止

○カブトムシの準備

社会の動きは悪い方にすすむばかりだった。が、かすかな希望を託していた。

3月18日に森に行き、26匹のカブトムシをつかまえた。その後も機会ある毎に森に行き、虫かごは60を越えていた。

森は、私が借りている畑のすぐ目の前だ。新緑の頃になると、この森からヤマガラやキツツキの仲間のアカゲラ、時には大変珍しいサンコウチョウ（三光鳥）の「フィチー、ホイホイホイ」（ききなしは、月日星ホイホイホイ）と囀りが聞こえてくる場所だ。この森の中の一角に、落ち葉を集積している所がある。そこが私のカブトムシ採集のフィールドなのだ。

朽ちた落ち葉をそうっと除けながら土を少しだけ掘っていくと、Cの字に寝ている白い肌をした3令のカブトムシに出会える。たくさん採ろうと欲を出して、深く掘ってみるが、かえって見つからない。なぜか？生き物は「エサの近くにいる」という真理だ。カブトムシの幼虫は、エサとなる朽ちた落ち葉の近くにいる。だから、表土を除けながら探していく。過去に一度、落ち葉を除けるだけで、おもしろいほどたくさんのカブトムシが見つかった。カブトムシにとって、最高の自然状態だったのだろう。

のらえもんの活動は、出来なくなった。が、カブトムシの飼育希望を保育園・会員に聞いてみると、「飼ってみたい！」という希望がたくさん寄せられた。全部で130匹ほどを、それぞれ宅急便で送付した。

「スティホームは、カブトムシを飼育して・・・」だったのかもしれない。我孫子産のカブトムシは、みなさんの癒しになったのだろうか？

○二人だけの花見会

のらえもんが中止になったので、私の住まいの近くで花見を計画した。

女房と、自治会の2号公園から湖北台中央公園への花見散策。歩く速度に合わせて、花の色調は変幻自在。動く物があれば、双眼鏡で確認。「ヒヨドリが、花を食べている！」どおりで、その下には花びらがたくさん落ちている。遠くから見る桜は、まるで雪のよう！ようやく着いた中央公園の築山で、ザックを下ろす。ガスコンロをセットし、お湯を沸かす。まるちゃんのラーメンにお湯を注ぎ、「待つのだ、3分間！」

芝生の中で遊ぶ若い家族を見ながらの昼食は、五つ星！！ゆったりした時間の流れの中のとりとめのない会話、満開の桜と青い空、幼児のはしゃぐ声、そよ風に乗ってとどくくシジュウカラとウグイスの声。新鮮な日常！4000歩の小さな旅だった。